口頭発表B②

グローバル化社会に向けた国際大学間連携教育プログラム

チミドルジ　ツォルモン
（徳島大学大学院総合科学教育部）

1．はじめに

グローバル化する社会の中で、持続可能な社会システムを築いていくことは、今世紀の世界的課題となっている。このような世界の変化に対応出来る人材育成に向けた大学の教育改革が、各大学に課せられた急務の課題であると言えよう。このような状況のもとで、地域の大学は、地域社会の知を次の世代に伝える仕組みを創り出して、グローバル化の時代における国際社会の諸課題に対して対応出来る人材を育成することが必要である。

日本政府のIT戦略会議で制定された、i-Japan戦略 2015 では、デジタル技術の活用を教育・人材育成の場において推進することなどを含めたデジタルグローバルビジョンの策定を検討するべき課題としている。また、ユネスコの ICT in Education では、ICT を用いた遠隔授業により、グローバルな教育システムの構築を目指している。これにより、これまで教育環境に恵まれなかった底辺層の子供達や、生涯学習者に対して教育を受ける機会を広げるという目標を掲げている。このように、ICT(Information and Communication Technology)を活用してグローバル化社会に対応できる人材育成は、日本だけではなく、世界共通の課題になりつつあると言えよう。

今回の取組では、グローバル社会に対応できる地域社会のための知的基盤を築くために、ICT を活用したアクティブラーニングによる新たな教養教育の授業モデルを構築することを試みた。グローバル化社会に対応するための、新たな大学教育プログラム開発するための研究を行った。インターネットを介したビデオ会議システムを用いて、海外の大学と連携した授業も、物理的には可能な状況になりつつある。しかしながら、お互いに異なる教育環境の中で連携授業を行うには、それにふさわしい教育プログラムの開発が不可欠である。今回の研究は、海外の大学生との連携授業において、アクティブラーニングを実現するためのプログラムを試作し、その有効性を検証した。また、今後の展開の可能性について検討をおこなった。

2．研究方法

今回の研究取り組みは、地域社会人が参加して、グローバル化社会、多文化社会に関するグループディスカッションを行う授業、及びインターネットを介したビデオ会議システム（Skype™）を用いた国際大学間連携授業の両方の授業において、その効果を比較した。

地域社会人が参加する授業においては、社会人と大学生がグループをつくり、ある社会的なテーマに関する議論を行う過程において、他の学習者からお互いに学び合うという原理に基づいており、グループ毎に社会人と学生５－８名という構成で複数グループを形成して、議論を行った。

また、インターネットのビデオ会議システムを用いた国際連携授業は、モンゴル国モンゴルビジネス大学、モンゴル科学技術大学を相手校として、地域社会人と日本人学生が、海外の大学生と日本語と英語を用いてテーマに沿って会話を行う形式の授業を実施した。この授業は、その一部を対面型授業やオンライン学習として実施するという混合型 ICT という形式で、国際大学間連携授業を実施した。すなわち、毎回の授業において、双方の合意に基づいて決められたテーマに関するスライドを事前に用意しておき、双方の教室において画面を共有する機能を用いて、リアルタイムでの教材の共有化を図った。この共有化された教材を用いて、議論をするという形式により、アクティブラーニング型の遠隔授業を実施した。

今回の取り組みにおいて、授業に参加した日本人学生、社会人、海外の大学の学生 179 名に対し

て「授業の評価と改善点」と「海外の大学への留学希望」に関するアンケート調査を行った。また、海外の学生にはオンラインで調査を行うことと共に、「海外の大学への留学希望」に関するアンケートもおこなった。

3．結果と考察

今回の研究の結果、地域社会人と大学生が参加してグローバル化社会と多文化から学ぶに関する授業を実施できることや、混合型 ICT を用いて国際大学間オンライン連携授業を実施できることが示された。また、グループディスカッションや双方向性の対話を中心したグローバル化社会に対応できる人材育成教育が、生涯学習プログラムや国際連携授業と融合することにより、効果的な教育プログラムになりうることが明らかになった。

受講生へのアンケート調査から、あるテーマについて議論をする中で、知識を活用して自身の考えをまとめ、他の人と意見交換をすることにより、自分の考え方に対する理解が深まることが明らかとなった。海外の大学への留学希望先として、モンゴルの学生は、韓国へ留学を希望する学生の割合が多いのに対して、日本の学生は韓国を留学先として考える学生がほどんどいないことが、両国の学生で最も際立った違いであった。これは、両国の社会環境の違いを反映していると考えられる。

この授業から体験したことについて	大にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
1 外国人とのコミュニケーション力が向上した	12	36	7	2	1
2 外国の文化についての知識が広がった	21	31	5	1	0
3 外国語で話すことや聞くこと	14	37	5	1	1
4 自分の意見を表現するチャンス	22	31	3	2	0
5 ソーシャルメディアのアドバンテージ	6	30	17	5	0
6 外国語でのコミュニケーション力に問題を感じた	37	17	0	3	1

「異文化交流から学ぶグローバル化」と「グローバル社会を考える」授業についてアンケート結果

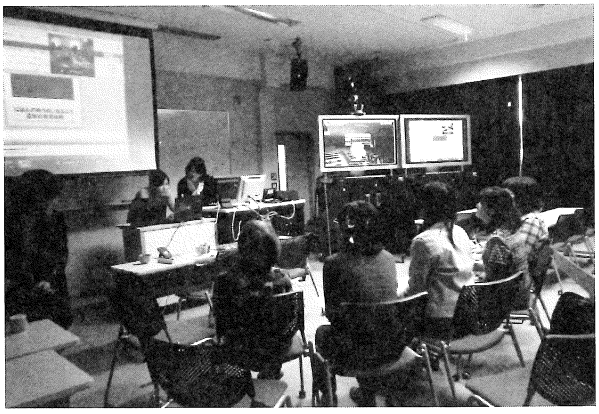
この授業から体験したことについて	大にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
1 外国人とのコミュニケーション力が向上した	1	7	2	1	0
2 外国の文化についての知識が広がった	4	4	3	0	0
3 外国語で話すことや聞くこと	0	8	2	1	0
4 自分の意見を表現するチャンス	3	6	2	0	0
5 ソーシャルメディアのアドバンテージ	1	7	3	0	0
6 外国語でのコミュニケーション力に問題を感じた	4	2	3	2	0

スカイプ授業についてアンケート結果

社会人を交えたグループディスカッション

留学生を交えたグループディスカッション

モンゴルでの英語によるグループディスカッション



スカイプによる国際連携授業